

保育実践シート（園の概要）

2歳児クラス・園児数：34名



実践内容の概要

【テーマ】体を動かすあそび・発展的なあそび

領域：健康

カテゴリー：危険回避・体を動かすあそび・発展的なあそび

課題：外で体を十分に動かしたり、様々な遊具や用具などを使った運動や遊びを楽しむ中で、危険を回避する力などを身につけられるように環境を作っていく

これまでの環境



体を動かす遊びや場所の環境はあるが、走り回ったり外を眺めたりして遊びの発展が見られなかった。また、体幹が弱く転倒した際に大けがに繋がることもあった。

今回、用意した環境



でこぼこ、ザラザラ、つるつるなど、様々な感覚を感じられるようなセンサリーマットを用意した。

子どもたちの姿が
どうなったか



様々な感覚の刺激を受けることで、前庭感覚・固有受容覚・触覚の発達に寄与している。それにより、自分の体の傾きに対して力を入れる方向や力の入れ具合が分かり、転倒等が減ってきた。

今回の発達項目を選んだ背景

【現状の環境で困っていることなどをご記入ください】

・自分の体の傾きを感じる感覚が弱く、それに対する体の使い方も未発達のため、体幹が弱くバランスを崩しやすい。室内でも戸外でもどこかにぶついたり、転んだ際に手が出ずに怪我につながることが多い。また、姿勢が悪い・疲れやすい・集中力が続かない等の姿も見られている。



今回、用意した環境

【今回取り組んだ環境についてご記入ください】

- ・遊具の数が少なかったため、遊具の全体量を増やした。その際、両足ジャンプ、くぐる、ぶら下る、転がる、橋を渡るなど全身を使って遊べるような遊具を選択した。
- ・前庭感覚、触覚に寄与する遊具を取り入れ、様々な感覚刺激を感じながら遊べるようにした。
- ・集団遊びでは自分の体を操作する遊びを取り入れ、力の加減（固有受容覚）を知ったり、体の傾きを感じたり（前庭感覚）できるようにした。



環境づくりで配慮・工夫した点

【取り組むとき、どのような工夫をしましたか？】

- ・前庭感覚などの感覚の発達を促すため、全身を使ってバランスをとる動きが出来るような遊びを多く取り入れた。
- ・自分の体の動かし方が分かりやすくなるように、体の使い方を言葉にして伝えていった。



子どもの様子の変化

【子どもたちの様子はどう変化しましたか？】

- ・左右の体の傾きに対し、両手を広げたり、膝を柔らかく使って傾きの反対方向に力を入れたりしてバランスを取ろうとする姿が増えてきた。
- ・前後の傾きに対して、特に斜面を降りる時には重力に任せて駆け下りる姿が多くみられていた。体の使い方や力加減が身についてきたことで、膝を曲げて力を入れ、地面に対して垂直に重心を下ろして斜面をゆっくりと降りることができるようになってきた。
- ・体の使い方が分かってきたことで、重心の傾きに対し力を入れて転倒しないようにバランスをとる姿が増え、転倒による怪我が減ってきた。



課題と次にやってみたいこと

【取り組んでみての課題】

・年々保育の中で子どもたちの体幹の弱さを感じる場面が目立ってきている。今回は体のバランスに関わる前庭感覚、力の加減に関わる固有受容覚の育ちを促すため、それらの土台となる触覚からアプローチを行った。触覚に寄与するセンサリーマットを使用していったが、ビルドインバランス、紐とびなど他の遊びも組み合わせることで、より前述の感覚が育っていく。戸外遊びででこぼこした不整地での遊びや築山などでの斜面昇降等、より感覚が育っていく遊びをすることで、体幹が育ち、けがの防止や集中力の向上にも繋がっていくことが感じられた。

【次にやってみたいこと】

・様々な感覚を使った遊びを普段から保育室内でも出来るように環境を整えていきたい。